



フードバレーとかわち

新たな取り組みにチャレンジしています



長岡 淳一

帯広市
有限会社フレーバー

「衣食住+遊び～豊かなライフスタイルの提案&創造」をコンセプトに、食と農という十勝の優位性を生かして、日々の豊かなライフスタイルをトータル的に発信しています。

十勝をサステイナブル(持続可能)なライフスタイルの場として発信します!!

■十勝の価値に魅力を感じる人が集まるカフェレストランを作ります!

街の近郊に豊かな農地や漁場があること、地元意識が強いこと、おいしい味とはどんなものか知っている人が多いこと。こうした十勝の特徴に価値を感じる人が集まるレストランを作ります。

■“十勝/TOKACHI”をグローバルなブランドに!

地元食材を活用した特産加工品を開発し、ライフスタイルとともに提案するなど、地域全体のまちづくり、さらには十勝/TOKACHIをグローバルブランドとして確立させるための取り組みを行います。また、市民への周知、関心度を高める取り組みを行います。

いまの課題は?

- 十勝は原料供給基地としての認知度は高いが、最終製品(加工品)の販路が弱く、首都圏の消費者は「十勝=食」というイメージをあまり持っていません。
- 観光地としての認知度は、北海道のほかのエリア(ニセコ、富良野、函館、小樽など)に若干遅れをとっている現状があると思います。
- 十勝の認知度を高めていくためには「ライフスタイル」「コミュニティ」を表現していく必要があり、そのための「場」が必要だと感じています。

「丸の内朝大学」のポートランド朝大学クラスに参加。ポートランドに魅せられた面々やソーシャルデザインの専門家、ポートランドで実際に街づくりに関わる人たちが講師となっています。



チャレンジ実現に向けた研究内容は?

クリエイティブな地域コミュニティを実現している、アメリカ合衆国のポートランドを訪問し、学んできました。

ポートランドは、色鮮やかなストリートカー、自転車優先道路、職住混在の街並み、ファーマーズマーケット、地産地消のレストラン、オーガニックフードがあり、朝から多くのカフェに人が集まり、地ビールや地元焙煎のコーヒーも数多く、すれ違う人が優しく微笑み合う場所です。



ビーツの加工品など、地元の生産物が地元のスーパーで売られていたり、売っているものを見ても地元志向が強い街だということが分かります。



人中心で街がつけられていて、街全体がカフェのようでした。人々のライフスタイルを繋ぐ要素が備わっていると感じました。自分の等身大に意識的であり、自然環境に対しても意識的です。



ローカルの材料を使い、ローカルのアーティストに部屋のデコレーションを依頼するなど、ポートランドの優れた所を誠実に活用しているACE HOTEL。等身大で勝負するという誠実さが評価につながっていると聞きました。

フードバレーとかわち推進協議会の支援(十勝人チャレンジ支援事業)を活用して、以下のテーマで調査研究を行いました。

【テーマ】 クリエイティブな地域コミュニティブランディング ～デザイン活用先進国アメリカに学ぶ～

十勝人チャレンジ支援事業とは?

新たな取り組みにチャレンジする人を支える事業。単なる視察旅行ではなく、自身の経営課題を再認識し、その課題解決のために何が必要か調査研究を行い、実践していくものです。